

タック山本さんの原爆被爆者の苦悩の要旨

まず私の経歴を簡単に話します。

私の両親は、1922年にシアトルに材木商である山本商店の支店を設けるために移住しました。そして13年間の在住中の1929年に、私はシアトルで生まれ、今年で91歳になりました。日本と米国の2重国籍を持っていた私は、幼稚園と小学校1年の3か月までシアトルで過ごし、その後両親に連れられて神戸に移住しました。日本では、小学校、旧制中学校、旧制高等専門学校を終わりました。1945年の4月から8月まで、広島県江田島の海軍兵学校で学びました。今日の話は、8月のそこでの経験です。

戦後アメリカに帰ってから、アメリカ陸軍に3年志願し、韓国の桂城で軍事情報部に勤務しました。除隊後はシカゴのイリノイ工科大学に学び、卒業後サンフランシスコに在住し、36年間引退するまで建築家として頑張りました。

1945年3月17日、米空軍の爆撃で神戸の須磨の我が家は全焼しました。そして2週間後の4月1日に海軍兵学校に入校し、忙しい日課、厳しい規律、激しい訓練の日々を過ごしていました。そして話は8月6日の朝に移ります。この朝アメリカの2機が広島方面に向かっている警報が出ていました。警報はおそらく偵察機との推察でそれ以降の警報は出なかったと思います。その朝、私の所属していた分隊の45人は、1階の教室で机に座って静かに自習していました。音と言えば静かに本をめくる音ぐらいでした。すると突然雷の閃光のようなものを感じました。皆が何だろうと前後を見渡しました。数秒後に激しい揺れ、「何だろう、地震かな」とまた皆が周囲を見渡しました。その後、上級生が何かつぶやいているほかは、また静かな教室に戻りました。8時になって自習時間が終わり、私は皆について外に出ました。北の方にものすごく大きい今まで見たこともないような雲があるのを見ました。ご存知のように原子爆弾のきのこ雲ですが、その時は誰もわからず、上級生が「たぶん呉の弾薬庫が爆発したのではないか」とささやいているのを聞きました。これが世界で初めて落とされた原子爆弾であったことを、私は数日後に知りました。3日後に長崎にも原爆が落とされたことは、後で知りました。後で調べたところ、私がいた教室は、爆心地からわずか12マイルしか離れていませんでした。私たちの教室の北側にあった丘が、原爆の強烈な閃光と強風を遮ったようでした。今日まで生きていることを考えると、私は幸運にも何の悪影響も受けなかったということでしょうか。

そしてこの2週間後に終戦となり、兵学校は閉鎖。家に向かって帰る夜、呉から国鉄広島駅まで歩きました。その時の広島は真っ暗、本当に真っ暗でした。朝になって初めて悲惨な広島を見ました。

人から、「広島の被害は、ほかの町の空襲からの被害と比べるとどう違うのか」と尋ねられたことがしばしばありました。私には、完全破壊された広島も神戸も、完全破壊には変わらないと思います。恐らく、死亡した人の数は広島の方が多かったでしょうが。

ともかく、いつになったら戦争のない平和な世の中になるのでしょうか。